

平成26年度第2回下関市公立大学法人評価委員会議事【要旨】

平成26年7月31日(木)14:00~17:00

下関市立大学本館 5階 大会議室

下関市公立大学法人評価委員会 : 野口委員長、江里委員、中野委員、岡田委員、冷泉委員

公立大学法人下関市立大学 : 荻野理事長、吉津学長、木村学部長、佐々木事務局長、法人事務局

評価委員会 : 委員長 委員 事務局

法人役員 : 理事長 学長 学部長 事務局長 法人事務局

1. 開会のことば

2. 議事

平成25年度法人の業務実績に係る評価について

~大項目 「教育に関する目標」に関する質疑及び評価については、以下のとおり

=ヒアリング=

項目番号 1-1

主な改正点のそれぞれについて、意図する所、期待するところは何か。

それと、地域貢献は、カリキュラムポリシーに十分反映しているか。

近年、入学者の学力、積極性という点で従来と違って来たという印象があり、学生に合わせる形でカリキュラムを改編していこうという意図です。

本学では、これまで、選択肢が多くて、緩やかな選択という形にカリキュラムがなっていたが、そうすると簡単な科目に流れてしまう傾向があり、もう少し縛りを作って、そして「あなたはこういう学科を選び、そしてその学科の中でこういう部分を学んで卒業した。」ということが明確に分かるようなカリキュラム編成にした。

かなり縛りは厳しくなるが、しかし、自分がどういうことを学んだかということをも自分自身分かるような形にしていこうというのが、一番大きな改革の中身です。

また、外国語を熱心にやる学生に対しては、3、4年でも「外書講読」などの充実化を図り、好きなことが学べるようにした。

そして、全体としては4年一貫のゼミというのをキッチリと学年ごとに作り、顔が見える少人数教育という本学の目的に沿うような形で定めた。

これは、来年度(H27)の新生から実施するので、今年度(H26)に確定する。

もうほぼ、確定している状況です。

地域貢献をカリキュラムポリシーに反映しているかということですが、公共マネジメント学科が今年4年目になるが、地域に出かけて実習することが必修で、調査・分析の授業も

盛り込まれており、地域との関係、貢献に繋がっている。

それから、PBL（課題解決型学習）で、企業や役所が大学に課題を出し、大学の学生グループがそれに対して取り組んで報告を出すというようなことがあり、地域との関係を強化するきっかけになると思います。

項目番号 2-2

二学科志望制度による入学者は何名か。

第2希望の学科に合格した人数は、全国推薦で3名です。

どの学科の合格点が高かったのか。

志願者が一番多かった公共マネジメント学科の平均点が一番高かった。

項目番号 2-3

「福岡会場を新設し、志願者を増やすことができた。」とあるが、何名増えたと見込んでいるのか。

前期日程で福岡会場を新設したが、それに伴って下関会場に来ていた福岡県の高校生が福岡会場に行ったため、結果として見ると、H26年の福岡会場前期は234名の受験があり、下関の方で減ったのが135名ということで、それだけの比較であれば約99名の増加ということになります。

項目番号 3-1

「平成25年度入試と平成26年度入試の志願者の動向を参照にしながら、より優秀な入学者を獲得するために、一般入試制度のあり方について新たな検討を始めた。」とあるが、新たに検討すべき何かが見つかったか。

直接は関係ないだろうという分析です。

H27年度入試からの入試改革というのはどのような影響があるのか。

センター入試の科目の編成が、社会と理科が少し変わるということだが、本学のセンター入試の活用の科目に大きな変化はない。

巷間でいわれている新しい入試制度については、しばらく先のことで、今年・来年ということではない。

項目番号 4-2

ARとは具体的にどんなことか。

動画で、オープンキャンパスに来た生徒がARポスターの前でスマートフォンをかざすとポスターに載っている学生が動き、より臨場感が増すというものです。

項目番号 5-1

高校側の要請、ニーズは何か。

大学の講義というものに、直に触れることができるということです。

内容について、一回だけの講義を聴いても理解するのは難しいが、大学の講義というものがこういうものだということをイメージさせる効果があり、そういうことを高校側も期待している。

「対象校の効果的な抽出」とあるが、下関市内の高校への出張講義等は下関商業高校を除いてどれくらいの件数あるのか。

長府、西市、下関西、豊北、豊浦、田部高校で、それぞれ1回ずつの6回です。

項目番号 6-1

3つのポリシー、養成する人材像をそれぞれどのように改めたか。

大学院に関しては、近年、応募者、あるいは入学者が定員どおり確保できないというような状況になっている。

そうした状況でも優秀な学生を確保しようとしている。

本学の場合、外国語（英語）ができないと入れないという入学試験の仕組みだったが、他の大学を調査したところ、大学院の入試に外国語を課しているところは減ってきている。

それで、「専門科目で非常に優秀である」、あるいは「全体的な成績が優秀である」というような学生を大学院に受け入れようという入学試験に改める。

また、2専攻4分野という形で専攻別に入学試験を行っていたが、これを1専攻2分野という形に改め、一括して入学試験をすることで、もう少し地域の社会人にも入りやすくという形にした。

最初から具体的な研究テーマというものを設定し難いという社会人の方もいて、しかし、研究はしたいというような人にも入りやすく変更をした。

項目番号 8-1

カリキュラム全体は、H26年度のいつ頃、でき上がるのか。

骨格部分とは何か。

肉付けはどのように行なうのか。

今、取り組んでいることについては、ほぼ全て確定しており、9月には完成する。

骨格部分は、縛りは厳しくなるがより明確に自分が学んだことを確認できる形にした。

全体として、卒業単位数が134単位とやや多かったが、124単位に減らすよう変更した。

また、4単位科目があったが、それを2単位科目とし、全体を統一した。

すっきりとさせ、かつ、その中では選択肢が広がっていくという形にした。

それから、外国語の副専攻を置くことにより、肉付けをしていく。

当面は外国語の副専攻だが、それ以外にいろいろ選択肢が広がるようにしていく。

項目番号 10-2

結果の分析はどうなっているのか。

前年度との比較は難しい。

昨年度（H25）に単位を沢山出せるように変更したので、一昨年度（H24）に申請をしようとした学生が控えていたというようなことがあり、昨年は非常に増えた。

改善策として、後援会の費用で資格試験の受験料を1回3,000円補助している。

項目番号 15-1

授業アンケートの実施によって、どのような授業改善が推進されたのか。

また、教員コメントはどのように授業改善に生かされたのか。

授業アンケートは、年2回やっており、ほぼすべての授業を対象にアンケートをしている。

その結果は全教員に対して通知し、学科ごとに会議で検討・協議するようにしている。

また、各教員には自分への質問に対してコメントを出し、結果の自己分析、具体的な改善策などを出してもらい、FD委員会において、全体的な評価をするようになっている。

各教員の授業改善は、授業アンケートから指摘が出てきており、それに対して割りと丹念に「こういうふうに変えていきたい」というように、前向きにやっています。

この結果は、毎年教員を教育・研究・学内業務・地域貢献で業績評価しており、教育について、教員が各自、授業はどうだったか自己評価し、ABCで自己評価します。

その評価は、自己評価とは別に、学長と学部長が、客観的に評価する。

良くやっているというのは「A」で、それ以上に非常に良くやっているというのは学長・学部長によって付ける。

全体の9割（89％）は、良くっていると自らを評価しており、我々もそのとおりだと思っております。非常に授業、教育に関しては改善されてきていると評価しています。

項目番号 15-2

授業参観にはすべての教員が一度は参加したのか。

60名の教員のうち、約7割の45名がコメントを出している。

コメントを出していなくても、参加しているものもいると思います。

昨年までは、11月を授業参観月間としておりました。しかし、限定する必要はないので今年から1年間いつでもいい。11月に関しては強化月間としている。

それ以外でも、もっと見たいというひと、時間がなかったひとは1年間どこでもいいという形にして、できるだけ参加できる仕組みにしています。

7割というのはどうでしょうかね。

大学というのは、企業もそうですけど、「ひと」だと思います。

学校の資産というのは、先生です。

良い先生をどれだけ育成するのか、勤めるのかというのは学長の大きな仕事ですから、そういった意味では積極的な先生方を作り上げていくということは、生徒も大事ですけど、大事だと思います。

なんとか、全員参加させるような仕組みを作り上げるべきではないかと思っています。

項目番号 20-3

6月市議会でハラスメントに関する一般質問があったと伺っている。

当委員会に報告するような事項はあるか。

現時点では特にありません。

ハラスメント防止講習会、さらに追加講習会のどちらにも参加できなかった不参加者の数はどのくらいなか。

出席している人数は増えてきていると思いますが、昨年に関して言えば、ハラスメント防止講習会、追加講習会に結局参加しなかったひとが5名いる。

その5名については、個別にハラスメント防止委員長が講習をするということで、それを含めれば全員が何らかの形で講習を受けている。

項目番号 21-1

自然災害や合宿の参加者予定者が少なかったなど、大学の努力不足ではないと思うので、自己評価 というのは厳しいかなという印象ではある。ちなみに、2回目の合宿の参加予定者が少なかったということについて、その原因は何と考えているのか。

あと、キャリア教育というのは1年生から4年生までシームレスで行なっているのか。

就業力育成合宿は、1回目が自然災害で、2回目は参加者が少なくて止めたというのは12月7、8日ですが、この辺りは企業の合同就職説明会とぶつかっており、そちらの方に学生が流れて参加者が少なかった。

従いまして、日にちの設定というのに工夫の余地があります。

キャリア教育を1年生から4年生までシームレスというのは、1年から4年までキャリア科目というのがありまして、単位を取れるようになっており、1年、2年については基本的に限定しておりますが、3、4年のところについてはどちらで出てもいいというようになっています。

具体的には、1年生は「キャリア概論」

2年生は「キャリアデザイン」

3年生は「就職力開発」

4年生で内定が決まったような学生が対象で「ビジネスプロフェッショナル」という科目を置いています。

また、2、3年生にはインターンシップができるような科目編成にして、4年一貫したキャリア教育という形にしています。

項目番号 21-3

現在、開設している講座は何か。

閉鎖した講座は何か。

学生のニーズをどのように把握しているのか。

就職支援メニューということで設定しており、「業界研究講座」や「公務員受験講座」、「各種資格取得講座」、「民間企業筆記対策講座」、「就職基礎講座」というような講座を設定しているが、あまり人気のないものについては随時閉鎖したり、要望に応じて新しく新設したり柔軟に対応させております。

= 大項目 の評価についての指摘事項について =

項目番号 21-1

社会や保護者から望まれている、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である『就業力』を持った学生の育成は、大学にとって重要なことであるため、より一層の就職支援の充実に努めること。

~ 大項目 「研究に関する目標」に関する質疑及び評価については、以下のとおり

= ヒアリング =

項目番号 24-1

科研費で、申請人数が 42 人で申請率が 79%、採択人数が 16 人で採択率が 38%です。これは非常に立派だと思う。

文科省はひとつの大学の採択率を 20%ぐらいにするというのがひとつの目標になっているみたいです。

その線をクリアしていますので、これは大したものです。

ただ問題は、79%ということは、あと 21%の教員は出していません。

この教員がどういう人かということです

研究についての自己評価はどうなっているのですか。

良くやっているという教員は 60%ぐらいです。

私は、科研費の申請をしない教員は辞めるべきだと思う。

教員の一番の基礎は研究で、科研費が採択される、されないは別で、これを 100%近く、90%というようにしないとまずいと思う。

やる気のある教員はどんどんやっている。

やる気のない 21%の教員をどうするのかということです。

科研費は申請の機会は年 1 回しかないです。

自分の研究がどういうレベルにあるかは、自分の研究を纏めてみないと出てこない。

その絶好のチャンスが、この科研費だと思う。なので、この科研費の採択率はいいけども 21%の方に対しては学長のリーダーシップで、これを少なくとも 85%ぐらいに上げるようにされるべきだと思います。

採択率が良いのは立派なものです。

項目番号 26-1

論文が3本と地域共創センター年報に48本ということで51本ですか。

これは年間にこれだけの論文が出たということですか。

本学で出している論文集が、『下関市立大学論集』と『地域共創センター年報』で、それに掲載されたもので、機関リポジトリに公開されているものです。

他の学会誌に出しているのはもっと沢山あります。

余所の雑誌に出したものは載ってないということですが、教員は大体1年に論文を何本くらい書くというような数値はありますか。

一応、最低1本以上です。

数値を決めても書かない教員は書かないので、決める必要があると思います。

あと、質の問題ですが、査読論文は何%くらいですか。

中項目 1 独創性及び特色のある高い水準の研究の推進に関する目標の「独創性及び特色のある研究成果」が、結局は学会誌など、査読付きの雑誌に出すということに対応していると思います。独創性や特色がなければ、なかなか学会誌には掲載されません。

それがどれくらいあるかということですが、そういう査読付きの雑誌に掲載された教員は自己評価が「A」であったりするのですが、我々がそれを再審査し、「S (special)」を付けたりするのですが、研究分野でそこまでいける教員が少ないというのが現状です。

折りに付け、査読付きの雑誌等に出せる論文を書くように言っています。

まあ、難しい領域です。

全体的に見ると頑張っていると思います。

今年の科研費の申請ですが、来年の評価委員会で何%に上がるかということで楽しみにしています。

これが私の評価のコメントでして、全体としては申し分ないです。

今の色々な質疑をする中で、私はこのあたりが改革の意欲的な部分だと思う。

そのところに大学が、先生が意欲的になっていくことがこの学校が大きく改革に向かって常に進んでいるのだなと我々が肌で感じることができる。

= 大項目 の評価についての指摘事項 =

なし

~ 大項目 「管理運営等に関する目標」

中項目 1 「業務運営の改善及び効率化に関する目標」に関する質疑及び評価については、以下のとおり

= ヒアリング =

項目番号 49-1

事務職員の人事計画を策定して、これに基づいた採用をしたとあります。

図書館の職員は、今、何人いて、そのうち有資格職員の司書が何人いますか。

図書館の職員は、5名おります。

うち、司書の資格を持っているものが2名(プロパー職員1名、有期雇用職員1名)、司書補の資格を持っているものが1名(プロパー職員1名)おります。

蔵書を25万冊ぐらい持っているので、司書の数はどうかと思っていた。

きちんとして整理されて、借りやすい、見やすいような運営をして頂きたいと思います。

項目番号 49-1

情報を一元管理する目的、意図するところは何か。

活用の方法は何か、教員評価に使うのか。

現在、本学では教員の教育活動や研究成果を必ずしも一元管理していません。

そのため、情報公開請求などで情報を公開するとき、部署ごとに対応するような事態が生じており、迅速に対応できておりませんが、一元管理すると迅速に対応できると思います。

その活用方法は、教員評価に使っているのかということで、もちろん使ってはおりますが、5年に一度、「研究者総覧」というのを出しておりますので、研究成果を外部の人に見てもらうために使っているという状況です。

項目番号 47-1

教員採用にあたっては、年齢構成や職位のバランスを考慮したとあるが、専任教員と特任教員の年齢構成はどうなっているのか。

大学基準協会からも年齢構成が高いと言われており、50歳代以上の年齢と40歳代以下を見ましても、50歳代以上が非常に高いです。

この5年間で見ますと、年々50歳代以上の比率が下がってきており、40歳代以下の比率が年々上がっている。

明らかに、若返りしたということは確実に言えます。

中項目 2 「財務内容の改善に関する目標」及び

「平成25年度 財務諸表の承認」、

「平成25事業年度における剰余金の使途の承認」に関する質疑及び評価については、以下のとおり

= 財務諸表について =

法人より財務諸表の内容について説明

= 剰余金の使途の承認について =

事務局より、法人から申請のあった剰余金の使途の承認について説明

= ヒアリング =

貸借対照表の流動資産で「未収学生納付金」や「その他未収金」、「長期および短期の貸付

金」で、平成25年度中に貸し倒れた金額はいくらなのか。

「未収学生納付金」が6件 127万2,525円、「その他未収金」として国際交流会館（留学生向けのアパート）の家賃として1件 5万4,000円が未収金となっている。

「長期および短期の貸付金」については、貸し倒れた金額はありません。

項目番号 52-1

外部委託事務がないと書いてあるが、今、どういったことを外部委託しているのか。

外部委託については、件数的には18件あり、主なもので、校門から入校される際に車両を整理する警備、土日の宿直業務、ゴミの運搬、学内の清掃作業、それとマイクロバスの運転を委託に出しております。

あと金銭的に多いのは、入試問題の印刷、受験会場の設営などです。

項目番号 52-3

職員提案について、募集期間が「7月1日から8月30日」の2か月しかないのが多いのか、少ないのかは良く分かりませんが、職員提案の仕組みについて教えて下さい。

職員提案は、年間いつでも出来ますが、特に7月1日から8月30日を強化月間ということで、事務連絡会議で呼びかけを行っております。

中項目3「自己点検・評価・改善及び情報提供に関する目標」

中項目4「その他の業務運営に関する目標」に関する質疑及び評価については、以下のとおり = ヒアリング =

項目番号 54-2

年度計画では「みらいフォーラム」を開催して、改善に活用するとなっておりますが、実施内容を見ますと「みらいフォーラムに代えて」と、違うことをやっている。

違う方法で、当初の年度計画の目的が果たせたという理解でよいのか。

「みらいフォーラム」をやる場合には外部の講師をお招きし、外部の方にも参加して頂いて、ご意見をいただきというような方式でやっている。

昨年度の場合には、外部講師を高知工科大学からお招きしたが、他の大学の学生も来て一緒に取り組むということがなかったため、「研究支援」をテーマにしたフォーラムを開催した。

項目番号 55-2

学生広報誌の「ココカラ.com」はどのような人々に、何部くらい発行して、どのように展開をしていくのか。

積極的に学ぶ喜びを外に伝えて、存在感のある情報誌に育てて欲しいなと思っております。

1年から3年生までの学生約10数名で、学生広報委員会は組織されております。

オープンキャンパスなどで活躍して貰うのですが、その時に「自分たちはこうですよ」という名刺代わりというか、そういったものが欲しいということで、「ココカラ.com」を昨年から

発行することにしました。

大学の広報と一緒に各高校には郵送しており、現在、次の号の作成に取り掛かっていると聞いております。

項目番号 57-1

蔵書の総点検をやって、その結果、それがどう次に繋がるのか。

総点検を行った結果、平成26年3月31日現在で3,016冊が不明となりました。

その後、研究室などで確認されたものもあり、結果としては2,958冊が不明となっております。これから不明図書を探し、それでも見つからない場合、2年後を目処に図書館管理運営委員会において「図書の登録を抹消すること」を諮ることになります。

次に、本を総点検して、正しい場所に入れ直した結果、学生が目的の本を探すというときに確実に探せるようになり、学生サービスの向上に繋がることになりました。

最後に、重複図書を確認し、あまり必要がないものについては破棄することによって、効率よく蔵書を所蔵して、資産の管理を適切に行うことができるようになりました。

項目番号 57-2

他大学の図書館整備状況を資料やアンケートを通じて調査したとあるが、何らかの収穫等があったのか。

図書館は集密書庫などのハードウェアが一応完成を見ておりますので、ソフト的な運営の面でどんな改革が出来るかというのがポイントです。

図書館ボランティアについて、学生、または公立大学であれば地域の方も参加している場合があるかもしれないということで、「ボランティアの活動状況」をアンケート調査しました。

その結果、できれば本学でも同様のシステムを構築できればと考えております。

= 大項目 の評価についての指摘事項 =

なし

~ 大項目 「予算、収支計画及び資金計画」

~ 大項目 「短期借入金の限度額」

~ 大項目 「重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画」

~ 大項目 「剰余金の使途」

「質疑応答」及び「指摘事項」なし。

～大項目 「施設及び設備に関する計画」

大項目XI「積立金の使途」に関する質疑及び評価については、以下のとおり

大項目 Ⅹでは修繕経費として 648 万 4,958 円を、大項目XIでは施設整備の改善に 1,767 万 7,000 円を充てていますが、この内容について法人より説明をお願いします。

大項目 Ⅹについては、毎年定例的にガラスが割れたから修繕するというレベルのものです。

大項目XIについては、計画を立て、学生の意見を吸い上げ、整備委員会の方で調査し、役員会で調整し、計画的に施設整備を行なうものです。

= 大項目 ・大項目XIの評価についての指摘事項 =

なし

= 業務実績報告書の評価及び審議、終了 =

3 閉会のことば

次回、

日時：平成 26 年 8 月 12 日（火） 午後 1 時

場所：下関市立大学 本館 棟 5 階大会議室

- ・評価結果書（原案）の審議
- ・「平成 25 年度 財務諸表の承認について」の意見集約
- ・「平成 25 事業年度における剰余金の使途の承認について」の意見集約

— 閉会 —